

くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会理事会説明資料 その1

令和5（2023）年12月24日版

「ピースくまもと設立準備会」活動を通して見えてきたもの

ピースくまもと設立準備会事務局長・くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会理事
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表 高谷和生

1 はじめに

本稿はこれまでに取り組んできました「ピースくまもと設立準備会」概要を、特別講演会の補足資料としてとりまとめたものです。諸事情で、後日詳細まとめを行い、理事会等で報告後、本HPに掲載予定です。

また、各取り組み詳細内容は、以下URLから参照ください。

<https://kumamoto-senseki.net/peace-kumamoto/>



2 「ピースくまもと設立準備会」設立とその活動

2019年10月小山和作代表が主催する「新老人の会熊本 戦争を語り継ぐ会」の第100回記念例会のシンポジウムに、パネルリストとして登壇する機会がありました。

語り継ぐ会代表の安藤富士記さんをコーディネーターに、参加者は平和憲法を活かす会の上村文男さん、RKKディレクターで戦争関連番組を多数制作されている井上佳子さん、熊本被爆二世・三世の会会長の青木栄さんと高谷の計五名。各自の取り組み紹介のあと、熊本の平和活動の課題等についても、取りまとめる事となりました。その場で、異口同音に熊本に「戦争と平和を学ぶ資料館がほしい」との話題が挙がりました。

それを契機として始動したのが「ピースくまもと設立準備会」です。熊本県内で戦争遺跡等で地域づくりを行っている各団体の連合会「戦争遺産フォーラムくまもと」と「新老人の会熊本 戦争を語り継ぐ会」が母体となり、さらに個人で活動している多くの有志に参加いただきました。

平成30（2018）年5月13日に設立発足を催し、設立趣旨を核として、空襲体験者の平和継承への願い、菊池飛行場ミュージアムでの取り組みの概要と課題、上村真理子さんからは所蔵資料へのおもいと現物資料の一部を紹介いただきました。その後、設立準備会活動は、熊本地震、コロナ災禍の中でしたが、約2年間計19回の実行委員会での協議を基に、以下の取組と事柄を取りまとめることができました。

第一番目として「くまもと戦争と平和のミュージアム設立趣意書案」「同展示概要計画案」を作成し、私達が願う展示施設の概要案をまとめました。

そのモデルとなったのは、名古屋のNPO法人「戦争と平和の資料館 ピースあいち」と岡山市立「岡山空襲展示室」です。

「戦争と平和の資料館 ピースあいち」は、2007年にNPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会が、開設させた民営の博物館相当施設です。次代の平和のために戦争を学び、伝え、そして行動する場です。市民の寄贈を中心に約5400点の戦時資料を持ち、常設展、企画展のほか、戦争体験者の語り、朗読会や講演会などが、これまで催されています。

なお、愛知県と名古屋市が合同で出資する団体が運営する「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」も、2015年に開設されました。愛知事例のように、公設と民営が相互に協力・連携する関係性も、設立する私達の平和博物館と既存博物館相互の連携を重視していく熊本型（熊本県博物館ネットワークセンター等）で、民間と公立施設との関係性の参考となるのではないでしょうか。

また、「岡山市立岡山空襲展示室」は、全国に多数ある空襲関連施設でも、運営等で参考となる展示施設です。岡山駅裏の複合施設内に設置された本館は、岡山空襲に関する資料や写真をはじめ、米軍の空襲関連文書や写真、空襲を体験された方々の証言などを展示してあります。この館の母体となったのは、市民グループ「岡山の戦争と戦災を記録する会」で、徹底した岡山空襲



左：ピースくまもと設立準備会発会報道 2018年（平成30年）5月1日
中：発足会での小山代表の挨拶 2018年（平成30年）5月13日
右：第19回事務局会での協議の様子 2021年（令和3年）12月25日

調査と検証が、館の根底となっています。空襲間連のM76焼夷弾やE46集束弾等の投下現物資料は、展示の核です。

第二番目は、展示の核となる「宇城市の上村真理子さん所蔵の戦時資料調査」を行い、HP上に、現在まで250点を紹介しています。それら諸資料の県民公開・紹介を目的として、熊本市立図書館では熊本市教育委員会と共催で「夏の平和展」を計3回開催しました。少しずつ、資料の重要性への理解が広がっています。

第三番目として、一般県民向けに合志・菊地方面等への「くまもと戦争遺産の旅」を3回開催し、地域に残された戦争の傷跡をまずは足下から知る企画を開催しました。また、東海大学観光ビジネス学科高野誠二先生のご支援を受け、見学モニター調査も実施し、「平和と戦争実相を学ぶ旅」のあるべき姿を、観光学の視点から継続調査しています。

第四番目として、Yahoo「未来に残す戦争の記憶」での戦時体験証言の掲載です。Yahoo内に熊本空襲概要をまとめた「幾度もの爆撃を生き延びて～熊本空襲～」や証言動画で赤城満智子さんと安藤富士記さんの証言、高谷の活動を紹介しています。また、完成しました本DVDは、Yahoo宮本聖二様のご厚意で熊本県・熊本市に、本会を通して寄贈いたしました。

これらのピースくまもと設立準備会での取り組みが、その後の「くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」設立への基礎となりました。



ピースくまもと設立準備会HPのTOP画面
上村真理子戦時資料室の紹介、各会議及び協議報告を掲載

3 「くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」で目指したいもの

現在は、ピースくまもと設立準備会から、新事務局長の永田昭紘氏他のご尽力により「一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」へと法人化し、組織を拡大して活動中です。月一回の街頭署名活動も始まり、新たな飛躍の一步です。

別添「くまもと戦争と平和のミュージアム設立趣意書案」「同基本構想案」を参照下さい。

これまでの取り組みからの課題と、今後に取り組むべき事柄をランダムに提示します。

- ①展示の核となる上村真理子さん所蔵全資料の概要集約と現物公開、デジタル化とHPでの公開
- ②県民向け啓発活動として、地域に根ざした例会・展示会と特別講演会等の開催
- ③空襲、戦災、戦争遺跡、戦争遺物等の「熊本の戦争遺産」の調査・検証と啓発活動
- ④熊本での戦争に関する既存証言や資料等の類別化とデジタル化、映像の集約
- ⑤次世代へつなげる小中学生向け平和教育の学習支援と実践。高校生や大学生平和活動への支援
- ⑥準備会HP新設による適時の活動内容等の情報発信と公開

4 まとめ ～熊本県内の戦争遺産の調査・検証と啓発～

また、宮崎・長崎県や各地平和ミュージアム等でも取り組んでいる様に、HP上で「くまもと戦争と平和デジタルミュージアム(仮)」開設も必要でしょう。それに、旅のよろこび社宮川和夫氏が主催する「くまもと戦争遺産の旅」定期開催での、県民意識の掘り起こしも大切でしょう。

戦争遺跡・遺産の学び・見学に際しては、「戦争の加害や被害の両面」からの歴史認識が大切ですし、「東アジア史の視野」と「地域の戦争史」での位置付けが、必要なのではないのでしょうか。近年、文化財活用論に圧され、全国では単に関心のハードルを下げる手法が多用されますが、徹底した「戦争と平和の学び」の学習保証と、戦争遺産が「国民の共有財産・ヘリテージ」である文化財認識を、館の根拠とすべきです。

戦争遺跡・遺産は、的確な歴史認識と時代背景や地域特性に関する基礎的な学びがなければ、事柄を認識し、理解することの難しさがあります。新たに設立される「くまもと戦争と平和のミュージアム」は、誤用された昭和期の「満洲戦蹟保存運動の反省」を踏まえ、この視点を特に大切にしたいと願っています。

そして、熊本県内戦争遺産の調査・研究活動と啓発活動は、両輪の活動です。これらの課題を整理しつつ、多くの仲間と設立に向け、グランドデザインに沿いながら、この様な取り組みを進めます。まさに、その活動そのものが「未来への継承」であると考えています。



左：YahooHP「未来に残す戦争の記憶」熊本間連頁のTOP
中：令和元(2019)年夏の平和展チラシ
右：第2回くまもと戦争遺産の旅 2019年チラシ裏面